



エンドウ マメ科の連作を避け、酸性土を改良する

園芸研究者 ● 成松次郎

図1-1 畑の準備1

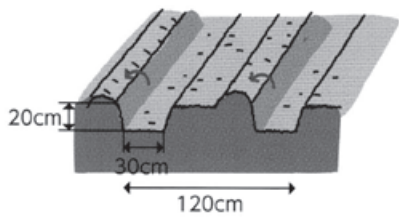


図1-2 畑の準備2

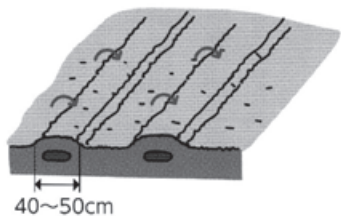


図2 種まき

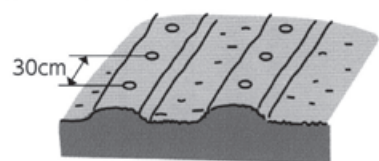


図3 支柱立て・ネット張り

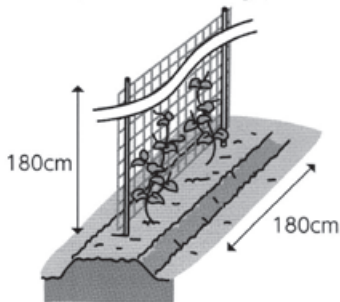


図4 収穫



栽培カレンダー(エンドウ)

気候帯	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	備考
冷涼地						●	●	●	■	■		早まきは苗作りをする
中間地	●	●	●	●	●	●	●	●	■	■		苗作りもできる
暖地												

● 種まき ●●● 苗作り ▲ 植え付け — 生育 ■ 収穫

エンドウには若いさを食べるサヤエンドウ、実が大きくなり、みずみずしいさやのスナップエンドウ、若く充実した豆を取る実とりエンドウがあり、それぞれ目的に応じた品種を使います。発芽適温は18〜20度、生育適温は15〜20度で、冷涼な気候を好みます。

【品種】サヤエンドウでは「ニムラ白花きぬさや」(ヴィルモランみかど)、「砂糖エンドウ白星」(松永種苗)、「あずみ野30日絹莢PMR」(サカタのタネ)など、スナップエンドウでは、「ニムラサラダスナップ」(ヴィルモランみかど)、「スナック753」(サカタのタネ)などがあります。

【畑の準備】エンドウは同一の畑で連作すると生育障害が出やすくなります(いや地現象)。土壌酸度はpH6・0〜6・5が適しているため、4、5年

はマメ科を作っていない畑を選び、酸性土を改良しましょう。

種まき2週間前に畑1平方m当たり苦土石灰100gを全面に施し、土とよく混ぜておきます。次に、1週間前に畝幅120cmを取り、幅約30cm、深さ約20cmの溝を掘ります(図1-1)。この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分10%)100gと堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜて幅40〜50cmの畝を作ります(図1-2)。

【種まき】中間地では10月中旬〜11月上旬が適期で、それより早まきすると年内に生育が進み過ぎ、寒害を受けることがあります。じかまきでは、株間約30cm、深さ2、3cm、1カ所4、5粒をまきます(図2)。発芽の頃に鳥害を受けやすいため、防寒を兼ねて不織布をべたがけして保護しま

す。発芽がそろったら2本を残し、他は間引きします。なお、6〜9cmポットで育苗する場合、1ポット3、4粒を深さ2、3cmにまき、間引いて2本にします。根鉢が形成された頃(本葉3、4枚)に植え付けます。

【支柱立て・ネット張り】草丈が約10cmの頃、約180cm間隔に高さ約180cmの支柱を立て、キュウリネットを張り、できるだけ早く巻きひげをネットに絡ませます(図3)。

【追肥】春先に生育の勢いが良くなり始めた頃と開花始め頃、畝の両肩に化成肥料を畝1m当たり約10g与えます。スナップエンドウ、実とりエンドウでは収穫期にも同様に追肥しましょう。追肥後は株元に土寄せをします。

【病害虫防除】さやができる頃からハモグリバエが多発します。登録農薬な

どを使用基準に従って防除します。うどんこ病も登録農薬で予防します。

【収穫】適期に合わせて収穫しましょう。サヤエンドウは、子実の肥大が始まる開花後15日前後に収穫します。スナップエンドウは、開花後25日前後に収穫します。さやが鮮緑色で厚みが約1cm、豆が肥大してさやの断面が円形に膨らんだ頃が目安です。実とりエンドウは、さやをむいたときに子実が軽く離れる頃に収穫します(図4)。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



7月農作業メモ



水 稻
田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

◎いもち病・カメムシ・ウンカ対策 (6月号掲載分)

6月下旬から出穂が始まって、本田防除の時期となります。水田の約5～6割程度の出穂が確認できる時期に、1回目の本田防除として「トライスタークル」の散布をお願いします。

また、2回目の本田防除は7日～10日後に「キラップ」を散布してください。尚、収穫の14日前までに散布しましょう。

注) 本田防除の実施後、病害虫が確認される場合には臨時防除で対策をお願いします。散布する場合、農薬散布の回数制限・散布時期の制限がありますので、注意をお願いします。

注) 特別栽培米用の農薬以外を散布した場合、出荷米は一般米扱いとなりますが、収量の確保を優先してください。

◎収穫までの水管理

出穂期以降は、米の登熟や品質向上を図るために、間断灌水による水管理をしてください。酸素の補給、根の活力維持につながります。落水は、収穫に支障がない限り遅らせてください(収穫前5～7日程度)

注) 登熟期に、高温障害等による品質低下が見受けられることから、水管理は十分に注意を払いましょう。

◎収穫・乾燥調整

早い地区では、7月下旬より収穫が始まります。穂のもみの85%程度が黄色く色づいた頃が収穫の最適期です。

茎や葉が緑色であっても、籾は黄色くなっている事が多いので、注意が必要です。

刈り取り作業では、生もみで長時間放置するとムレ米となりますので、収穫後は速やかに通風乾燥をしてください。

高温乾燥は、胴割れ等の発生原因となります。

掛け干しの場合は、期間を3～4日程度を目安として、適正玄米水分15%～16%で脱穀してください。尚、玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や高水分は、品質・食味を落としますので注意しましょう。

注) 籾の乾燥中は、排気ホース等から籾殻が飛散するため、近隣の迷惑にならないよう心がけてください。



7月・8月の柑橘園管理



果 樹
鶴浜 研二
果樹園芸課
080-1771-4257

1. 病害虫防除

品種	散布時期	対象病害虫	農薬名	散布時期
温州	7月上旬～中旬	※アザミウマ類 ※ゴマダラカミキリ	リーズン顆粒水和剤	2,000倍
		黒点病	混用 エムダイファー水和剤	600倍
	8月上旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	400倍
中晩柑	7月上旬	※アザミウマ類 ※ゴマダラカミキリ	リーズン顆粒水和剤	2,000倍
		黒点病	混用 エムダイファー水和剤	600倍
	8月中旬～下旬	黒点病 ミカンハダニ ミカンサビダニ	ジマンダイセン水和剤	600倍
共通	7月上旬～9月中旬	ミカンハダニ	メビウスフロアブル	2,000倍
		ミカンハダニ、ホコリダニ	ダニオーテフロアブル	3,000倍
	発生時	カメムシ	スターマイトフロアブル	2,000倍
			テルスターフロアブル	3,000倍

※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル 4,000倍も使用可能です。(7月)

※カイガラムシ多発の場合は、モスピランSL2,000倍を散布しましょう。

※収穫前日数が近い場合は、ナティーボ(F) 1,500倍を散布しましょう。

2. 施 肥 ○省力化タイプ(年2回施肥タイプ)

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
テコポン・清見・甘夏・河内晩柑・パール柑	新アグリロング28号	7月上旬	5袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
果皮強化対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・テコポン等

4. 摘果の実施

○温州みかん・・・小玉果や病害虫果を中心に摘果を行い、日焼けしやすい上向き果も摘果しましょう。

○中 晩 柑・・・7月中旬までに粗摘果が終わるよう作業を進め、最終着果数の2割増し程度まで落とします。品質の悪い裾成り・内成りから行い、その後赤道部と樹上部の小玉果や傷果を中心に摘果しましょう。